

2020年度の金沢星稜大学地域連携活動の総括

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の年となりました。新型コロナウイルス感染拡大による影響は多岐にわたり、地域との連携や地域活動も例外ではありませんでした。金沢星稜大学および金沢星稜大学短期大学部(以下、本学)では、前期に遠隔での授業の実施や学外研修・各種活動の自粛といったなかで、地域活動も自粛・延期となりました。

8月以降、感染拡大が鈍化するなかで地域活動も動き始めました。本学の「地域連携による地域貢献活動」推進事業は4団体、星稜ジャンプ地域活動プロジェクト(ちいプロ)2020は6団体が活動を開始しました。また、自治体等との連携協定等に基づく地域連携促進事業、大学間連携による地域連携の取り組み、その他自治体や団体等との連携の取り組み等、関係団体と本学教職員による連携事業も活動していただきました。地域住民のみなさまにおかれましても、学生・教職員にご協力をいただきました。

それぞれ制約のある中、オンライン等を利用しながら感染防止対策を徹底し実施に努めていただきました。ソーシャル・ディスタンスや「新たな日常」が推奨され、今までの活動方法とは異なった活動方法を考え・実施と、新しい知恵が集合した実りある活動内容であったと思います。

本学の学生・教職員、そして関係団体・地域住民のみなさまには改めて御礼申し上げます。

2006年の教育基本法改正により、大学の基本的役割として「地域貢献」が明確に位置づけられました。本学の大学憲章の「研究」の項目には、「創造的研究成果を生み出し、国際的・学際的研究に挑戦するとともに、「地域とともに歩む大学」として、地域社会の課題解決に努め、着実な研究成果を地域社会に還元する。」とされています。

ますます深刻化する少子高齢化の課題をはじめ、過疎・交通・雇用・医療・福祉、そして環境等といった地域の課題は重層的でかつ山積しています。これらの課題を関係機関・団体、地域住民のみなさまとともに考え・活動し、地域社会との関係を積極的に構築してまいります。

本学の地域貢献は、上記にあげた本学大学憲章に裏付けられ、ますます発展していく所存です。地域活動と地域研究をもって、地域貢献に努めるとともに、「ポスト・コロナ時代」のなかでも前に進み、切り開いていく「地域とともに歩む大学」として、地域のみなさまに愛される大学となる取り組みの一つとして地域貢献活動を進めてまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

2021年3月

金沢星稜大学地域連携センター長
曾我千春